



デア ハーフエン Der Hafen

Nr. 68
2023年10月-12月

ソビエト連邦/ロシアという国への一考察(3)

横浜日独協会会長 成川 哲夫

私は1985年9月フランクフルトにあるドイツ興銀に赴任し、融資部でドイツ等の他に東欧、ソ連も担当することとなった。ソ連は共産主義の理想を掲げながら、東欧を自国勢力圏として実質支配し、自由と人権を抑圧する全体主義国家でもあった。こうした国との交渉は常に一定のリスクを抱えたものであった。

- (1) その後の6年を超えるドイツ滞在中に世界を揺るがす歴史的な出来事が起きた。それは1989年11月のベルリンの壁の崩壊と90年10月のドイツの再統一、そして88年~91年にかけてソ連が内部分裂を起こし、単一の主権国家としての存続が不可能となり、91年12月、米国と並ぶ超大国として世界の覇権を争ったソ連は消滅した。これに伴って東欧諸国は共産圏からの自立を果たした。
- (2) 情報公開と改革を進めてソ連を段階的に民主化しようと試みたゴルバチョフ大統領は、1991年7月にロンドンで開催された先進国首脳会議G7に初めて参加した。私の記憶では、ソ連は89年までは新規借入れを必要としない状態であったが、90年には輸出の不振を背景に経常収支が急速に悪化、その結果ソ連は多量の金の売却と外貨準備の取り崩しを余儀なくされた。深刻な経済困難に直面したソ連に対する経済支援は、当時世界が抱えていた最も大きな課題の1つだったはずであるが、ソ連に対する経済支援についてはG7でも大きな進展は見られなかった。私には、ソ連の経済困難を放置した場合、その影響が政治面、経済面、あるいは安全保障面の様々な分野で西側に及び、さらに経済情勢が悪化した場合、ソ連という広大な領土、人口、資源そして核を持つ経済大国が、民主化、自由化、市場経済化によって、その混乱の中から世界市場への統合に成功する事は到底不可能に思われた。予想通り、その後ゴルバチョフ大統領は急速に支持を失い、エリツィンが登場した。エリツィンは91年12月にソ連を消滅させ、ゴルバチョフは辞任した。89年の冷戦終結からわずか2年、米国との核軍拡競争や資源価格の低下に疲弊したソ連はあっけなく崩壊し、米ソ2極体制は終わりを告げた。米主導の西側は湾岸戦争にも勝利し「歴史の終わり」に酔うことになる。
- (3) 西側の支持を受けたエリツィン大統領は、経済的ショック療法を断行し、価格統制廃止、貿易自由化、国有企業約22万5千社の段階的民営化を実施した。こうした一連の政策はロシア経済と国民生活を大混乱に陥らせ、その混乱の中で、石油企業など巨大な国有資産は、ほとんど叩き売られ、ロシア国内の新興財閥である

オリガルヒが莫大な利益を得ることとなった。その後旧ソ連圏は混迷の10年を迎える。1990年代前半の経済改革で新たに独立した国々ではハイパーインフレが起こり、国民生活は困窮を極めた。特に性急な市場経済への転換と民主化によって、ロシア国民は大きな挫折を味わい、国民の生活と意識に深い傷痕を残すことになった。そうした混乱に乗じてプーチンが大統領に就任した。プーチンの登場で、振り子は大きく逆側に振れ、再び独裁体制が確立されて行く。こうした一連の出来事から我々は何を学ばなければならないのだろうか。プーチン大統領は後に、ソ連崩壊を「20世紀最大の地政学的大惨事」と呼び、多くの国民もソ連への郷愁に駆られるようになって行った。

- (4) ソ連崩壊から32年、継承国ロシアは「大国の復活」を掲げるプーチン大統領の下で再び強権体制へと傾き、その勢力圏を維持拡大しようとしている。ウクライナ侵攻はヨーロッパで起きている局地的な出来事に留まることはない。西側諸国は、一連の対ロ制裁によりロシアへの圧力を高めている。しかし制裁がロシアに打撃を与えることは確かだが、エネルギー大国となったロシアほどの大きな経済を持つ国に、これほど大掛かりな制裁が加えられたことはない。制裁による効果を期待するなら、西側も自らの痛みと犠牲を伴う長丁場を覚悟しなければならない。しかし中国のロシアへの支援、グローバルサウス諸国の支持が必ずしも得られていない現状で、その結束を維持していくことは大きな困難を伴う。
- (5) こうしたドイツの統一やソ連の崩壊といった一連の動きは、当然国際業務を手がけていた旧興銀を含む邦銀に大きな影響を与えた。1989年以降債務状況が悪化したソ連、東欧諸国の対外債務残高は増加を続け、民間からの資金供与は急速に絞られ各国の資金繰りは厳しさを増した。東欧諸国では債務は90年末には総額800億ドルに達し、ソ連でも対外債務残高が89年以降急速に増加、90年末にはグロスで650億ドル(ネット430億ドル)に達した(91年経済企画庁年次世界経済白書)。ソ連が解体した時、ロシアは700億ドルに上る大半の債務を引き継ぐ選択をし、その債務交渉が行われることとなった。その後幾度も金融団との協議を繰り返し、最終的に返済猶予、金利引き下げ、債務の一部免除が行われた。債務交渉は、公的債務はパリで、民間債務はフランクフルトで行われた。私は91年10月に日本に帰国し審査部(企業調査部)に所属していたが、ロシアとの債務交渉にも関わることとなった。(続)

「フェイラーを世界ブランドに 女性実業家・山川和子」

副会長 大瀬 克博

女性活躍先駆者の実業家山川和子氏と面談する機会がありました。山川氏はドイツのシュニール織フェイラーを世界的ブランドにしたモンリーブ社の創業者です。面談はバイエルン州駐日代表部のご厚意で実現しました。

山川 和子

1942 東京生まれ 1959 ソ連邦モスクワに渡る
1964 東京オリンピックでロシア語通訳を担当
パリ高級免税店「LITZ」に勤務 ビジネスを学ぶ
1970 アーロン山川氏と結婚 モンリーブ創業
2004 ドイツ・ホーエンベルク市より名誉市民賞
2017 ホーエンベルク市に高齢者介護施設設立
2018 バイエルン州社会福祉厚労省メダル受賞



1. 一枚の布との出会い、そしてモンリーブ創業

1968年初秋、山川氏はベルギーのリゾート地で見つめた1枚の美しい織物に心惹かれます。ドイツのシュニール織タオルでした。その出会いが人生を変えます。1970年にアーロン山川氏と結婚、株式会社モンリーブを創業、そしてベルギーで見つめた織物メーカーのフェイラー社を探し出し販売代理店契約を結びました。

2. ビジネス拡大とブランド化

苦闘10年、シュニール織の素晴らしさが徐々に認められ、1980年代に日本人向けにアレンジしたモンリーブ独自の製品作りに挑みます。それが日本のお客様に評価され、次のステップとして新しい二次加工品の製作販売を始めました。バッグ、エプロンです。"暮らしに使うから美しい"の製品作り、文化性や芸術性が評価されビジネスは大きな飛躍を遂げました。ビジネス拡大に伴い社員も1990年代には200人規模になります。またフェイラー社は1996年に工場生産量を約5倍に増大する設備投資を行います。時代と共に女性の生き方やライフスタイルが多様化してきます。トレンドを予測し「これが欲しかった」と思わせる未来の商品作りに挑みます。作り手の感性と直感力、使い手側の立場でのモノ作り力を磨きました。

3. ドイツ

2004年、山川夫妻はフェイラー社のあるバイエルン州ホーエンベルク市より名誉市民賞を受賞します。受賞理由はフェイラー社のシュニール織を世界のブランド品に育てたこと、同市の経済・産業への貢献、日独親善への貢献です。

2017年、市に「山川高齢者介護施設YSH」建設し寄付します。敷地内には桜を植えた日本庭園が作られ市民が憩える場所となっています。

2番目の事業が「住みやすい街ホーエンベルク」プロジェクトです。2000坪の敷地に建設されるスポーツヘルスハウスで、この10月に完成します。



4. 経営の基本「インタンジブル・無形の力」

フェイラーの商品は多くの人に愛されてきました。その内面に芸術や文化、伝統など目に見えない力を秘めてきたからです。目に見えない価値、インタンジブル、を大事にした商品を創ってきたからこそその成果です。無形の力を活かす、山川氏の経営哲学です。いま山川氏は著作、セミナー、講演、ブログなど経営論を発信する活動に取り組んでいます。

横浜日独協会では来年4月に山川和子氏による講演会を企画しています。ご期待下さい。

ドイツ大使館レセプションに参加して

常務理事 大堀 聡

去る7月24日、広尾のドイツ大使館において、「ドイツ軍の日とドイツ陸軍マイス総監来日」を機に催されたレセプションに横浜日独協会から成川会長、佐藤理事、そして私の3名が参加しました。

レセプションの主催者はフォン・ゲッツェ大使とキーゼヴェッター駐在武官で、参加者は自衛隊の幹部、各国の駐在武官とその関係者がメインでした。そこに我々が招かれたのは、根岸外人墓地のドイツ水兵の墓前祭での武官室との交流からです。

軍人という“お堅い”イメージでしたが、中南米の国の方などの気さくな人も少なからずいて、楽しい交歓の場となりました。



フォン・ゲッツェ大使を囲んで(右端が大堀氏)

また参加者の中にはテレビニュースなどへの出演も多い、コルスンスキー駐日ウクライナ大使の姿がありました。佐藤理事が見つけた挨拶の後、一緒に写真に収まる事が出来ました。

後で聞いたところでは、この時私が最初にスマホを渡して撮影をお願いした方は、フランス大使だったとのこと。知らぬが仏、今思い返すと冷や汗ものです。



コルスンスキー大使(中央)と
キーゼヴェッター武官(その右)

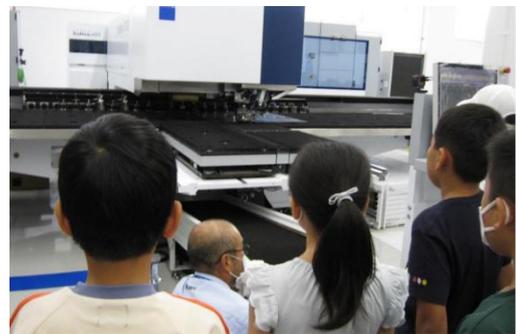
夏休み・ドイツ製大型マシンでものづくり体験

副会長 大瀬 克博

8月23日、横浜市緑区中山地区センター（岡本センター長）主催、トルンプ株式会社（高梨真二郎社長）協賛、横浜日独協会後援による小学校高学年を対象とするオープンファクトリーが白山ジャーマンインダストリーパークのトルンプ社ハイテクセンターで開催され、17名の小学生が参加しました。

トルンプはドイツ・バーデンビュルテンベルク州シュツットガルト近郊のディッツィンゲンに本拠を置く「板金加工機」、「レーザー発振器」などを扱うグローバル企業です。日本法人トルンプ社は横浜市緑区に本社があり、同区との地域共生そして学校教育へ協力のため協賛しました。同社は横浜日独協会の法人会員です。(会報2023年1-3月Nr.65に紹介)

グループ本社のあるドイツの紹介に始まり、同社加工機械の機能、応用分野などについてプレゼンテーションが行われ、その後に機械を実際に動かしてステンレス製のサイコロ作りを体験しました。小学生がスタートボタンを押して機械が鋼板を自動切断、次に別の機械で切断された鋼板を折り曲げそしてレーザー溶接します。完成したサイコロは生徒全員に提供されました。そしてサイコロを振り出した目と同じ数のお菓子をゲットするサプライズもあり生徒たちは喜んでいました。



実演の後には質疑応答が行われ、生徒たちから「トルンプ社ロゴマークの由来は?」、「溶接したサイコロはなぜ熱くないの?」、「製品の使われる所は?」など質問が相次ぎました。

最後に中山地区センターが用意したアンケートに感想を記入します。「将来、このような仕事をやってみたい」、「機械の凄さが分かった」、「ドイツの会社を知った」などイベントへの肯定的な感想が多く書かれていました。

約10名のトルンプ社員が生徒達への説明そして機械操作などに従事されました。中山地区センターから岡本センター長(当協会理事)と田中サブコーディネーター、当協会から企業委員会の津澤理事と大瀬が参加しました。

強く印象に残ったこと、それは技術説明と機械操作を担当されたトルンプ社員のカッコ良さ、そして好奇心に満ちた子供たちの目の輝き、でした。子供たちに夢を与える意義深いオープンファクトリーになったと考えます。

トルンプ社高梨社長も視察され、地域共生へのトップの強い意志を感じました。

堀内正弘氏（多摩美術大学教授）講演会（6/15） 「横浜の都市デザイン：横浜ポートサイドと仲町台」



会員 川辺 祐香

この度は横浜日独協会の本拠地である横浜の都市デザイン、その中でも横浜ポートサイドと、東京ドイツ学園が所在することで当協会もご縁のある仲町台のプロジェクトを手掛けられた多摩美術大学の堀内正弘先生より伺うこととなりました。

講演会に先立ち、成川会長より仲町台が開発された頃の思い出話をご紹介いただき、当手を振り返りながら和やかに講演はスタートを切りました。

まず、港北ニュータウンの街づくりが大きく他とは違ったことは、トップダウンではなく、地元の地主さんとの度重なる話合いの中で、横浜市と住民とがある意味で「夢を共有する」計画であったことだそうです。当時としては画期的なその興味深い内容を、映像と共にお話し下さいました。

MM21より少し早く開発が手掛けられた横浜ポートサイドは、長閑で地元の方がゆっくりと散歩が出来る街を目指して設計され、ほぼその通りに出来上がったと考えていらっしゃるとのことでした。



街並みの詳細としては、道路沿いには5階建てまでの低層建築、その後ろに高層ビルを配置したこと、また殺風景なオフィス街のようにならないようにアメリカを代表する建築家の一人であるマイケル・グレイブスに壁画を依頼し、大塚オーミの陶板を使用されたこと（ALTE横浜）。ブルー・グリーンを基調色として床はテラコッタ色のタイルを使用。地元小売店を高層ビルの下テナントに入れ、その間には緑の広場を設けてワンクッション入れることで圧迫感の無い構造にしていること。



街の随所にアートギャラリーを置き、世界的にも知られる建築家であるイタリアのエttore・ソットサスの彫刻“FAMILY”を広場に置き、パブリックアートを人々の生活の中に自然

に溶け込ませたこと、海から見た景観をも意識した構想であることなど、何気なく通り過ぎると気づかないかもしれない工夫と“思い”がそこにはあることを知りました。その“思い”とは「郊外でない都市をつくる」ことに根差し、①都市景観、②空間体験、③文化的活動（芸術、祭、イベント）、④風俗、生活、⑤味（食べ物、飲み物）の全てを兼ね備え、ビジネスとレジャーなど、一見矛盾した価値が共存している都市性の創造であったようです。1988年当時の日本にはそのようなデザインガイドラインを設けることはまだ一般的ではなく、ニューヨーク、パリなどの成熟した都市のように、この横浜にもそのような側面を盛り込もうとした意気込みを感じました。

次に、賑わいのある街づくりの工夫には、①一階部分にレストランなどの店舗を入れる、②ショーウィンドウの照明、③壁面後退による空間利用、④緑化、中庭、⑤階段の位置、⑥駐車場確保などがあげられる中、仲町台の例をご紹介いただきました。

この街は「自然と人間」「ネオクラシック」「花」の三つのテーマを掲げて街づくり協定を作成して計画されたとのこと。建物の色彩や屋上庭園や中庭を入れることなどにより、仲町台独自の「ネオクラシック」が形成されたとのこと、駅舎の構造やデザイン自体も色彩などに配慮してバランスの取れた楽しい空間を生み出していることなど、詳細にわたり映像と共に拝見し、また改めて現地に行き街歩きをしてみたいと思いました。



東京ドイツ学園にはその当時のPTAの方がデザインされた彫刻を設置されたことや、かつての日比谷シャンテを設計されたときのポケットパーク設置など、裏話まで添えていただき、一つの街が出来上がる過程での人間生活に彩を与えながら幸せに生活するために、機能的な建築物を置くだけではなく、ヒューマンストーリーを描いて広く長い目で見た都市計画がなされていることに大変感心致しました。

最後に、堀内先生が奥沢のご自宅を開放された古民家活用の「シェア奥沢」と、淡路島の「コラボデザイン」で人々が出会い、共に活動するスペースで「次元の違う少子化対策」とも言える将来に向けての夢がますます広がる「場づくり」のお話を伺い、想像力、創造力、発信力の無限なる可能性を感じた講演会となりました。

堀内正弘氏プロフィール

1954年東京生まれ。東京芸術大学建築科、東京大学大学院、イエール大学大学院修了。
磯崎新アトリエ、ELバーンズ設計事務所（ニューヨーク）勤務後独立。
横浜などの都市デザインの仕事に取り組む。その後、日本の公共主導の都市計画に疑問をもち、個人を中心とする新しい枠組みでのまちづくりに実践的に取り組む。
多摩美術大学環境デザイン学科教授。

神奈川大学 常民文化ミュージアム訪問



理事 佐藤 恵美

梅雨も明けないうちに真夏の太陽が照り付ける7月12日、成川会長以下役員8名で神奈川大学内の常民文化ミュージアムを訪問しました。3月に同学の小熊学長による「日本民俗学とドイツ」という講演（Der Hafen 前号にて向井副会長解説）をお聞きして、日本民族の生活文化史の一端を見聞できる大学内の「常民文化ミュージアム」を見学したいという有志で参りました。

まずは正門に入り、日独修好通商条約150周年記念に当時の駐日ドイツ大使シュタンツェル氏より横浜日独協会に寄贈され、当時の中島三千男学長と早瀬会長の手で植樹された菩提樹が、見事に成長して青々とした葉を茂らせているのを懐かしく拝見しました。



展示ホール入り口では小熊学長、当会監事でもある戸田副学長と担当職員の方々の出迎えを受け、横浜学院より始まり創立95年となる神奈川大学の沿革についてパネルを見ながらご説明を受けました。そのホールでは多くのテーブルと椅子が置かれ学生たちが静かに熱心にPCなどに向かっており、大学時代を思い出し自分達も気持ちが少し若返ったようです。

その後、職員の方のご案内で以下の3つの展示室を見学しました。

① 神奈川大学史展示室

ここには大学の歴史に繋がる展示物や当時社会に学生が関わっていたことを示す物、大学生の講義ノートや第二次世界大戦中の日記などもあり、その時代が身近に感じられる空間となっています。



② 常民文化ミュージアム

今回見学の一番の目的です。2023年に博物館相当施設と指定されましたが、その母体である「常民文化

研究所」の前身は、1921年 洪沢栄一の孫の洪沢敬三によって創設された「アチックミュージアムソサエティ」です。日本民衆の生活・文化・歴史を多様な領域において調査する研究所であり、各地の生活文化、中でも民具や水産史を中心に研究されてきました。



ミュージアムでは漁民が海上で自分の位置を知るために山や神社などを目印にした「漁場図」や一般庶民の仕事着であった各地方の綿麻等の織物など、興味深くも美しく展示されています。

③ 非文字資料研究センター/企画展「海外神社」

第二次世界大戦以前には海外にも多くの神社が建立されました。戦後、それらの神社は打ち捨てられ廃墟となる、あるいは別の目的に再利用されるなどの状態になっており、ここではそれらの写真を中心に神社の当時の資料などが展示されています。

常民文化研究所は洪沢敬三の「開かれた研究所」としての精神を受け継いでいるとのこと。私達が普段「文化」として捉えている絵画・建築・詩歌・茶道をはじめ様々な芸術は素晴らしいものですが、こうした日々の人間の営みの諸相を整理保存し次世代に残すことも大きな意味を持つものだと実感し、「開かれた研究所」の一端に触れることができた見学会でした。



この場をお借りし、小熊学長をはじめ丁寧にご説明をしてくださりました職員の皆様にお礼申し上げます。ありがとうございました。



「恵光寺建築物語」を拝聴して

副会長 南雲 淑子

柄戸正さんは私の友人のスザンネさんのご主人様です。スザンネさんとはデュッセルドルフ時代からの友人で、花柳流唯一のドイツ人名取ですので、横浜日独協会の10周年記念大茶会では日本舞踊を披露して頂きました。またスザンネさんはお料理とケーキ作りの名人でもありますのでご自宅で「カフェランツ」を始めるにあたり、正さんはカフェバリスタの資格を取られて夫婦で協力して経営なさっていました。その一方作家として数々の著作、翻訳書を刊行なさるといふ実に精力的な方です。その著作の「安永の椿」は、以前横浜日独協会で講演して頂きまして好評を博しました。



今回は、「ドイツ恵光寺の建築物語」の著作をもとに講演して頂きました。柄戸氏はドイツのデュッセルドルフに日本のお寺を建てるというとてもない計画の初めから、デュッセルドルフの清水建設の社員として参加し、数々の苦難を乗り越り10年の歳月を経て立派な恵光寺を完成に導きました。

もちろん当初よりいくつかの問題があり、その1つ1つを順序だてて解決するには柄戸氏のドイツ語力が大きくものを言い、施主及び建築関係者とドイツ側との交渉に大いに役立ち、ドイツ人関係者の信頼を得ることとなりました。また、予算という制約もあり全てを日本式という訳にも行かず、躯体は鉄筋コンクリートにするなどの工夫も必要でしたが、仏教伝道を目的とした日本文化センターの建築でしたので、外見上は全て日本的な事が必要不可欠な条件でした。そのためには日本から大工の棟梁たちを招く必要もあり、工期のきちっとした計画がなければ出来ないことであり、ドイツの気候も考え合わせながらの計画を作るのも大変な事でした。



阿弥陀堂

ドイツのマイスター制度は広く知られていますが、建築マイスターには一目でそれと分かるユニフォームがあり、誇り高い職となっています。その作業手順は日本の職人達とは大違いでした。日本の鉄筋コンクリート工事では専門が細かく分かれており分業制で現場監督の下で作業が行われるのが普通ですが、ドイツでは親方が職人の一団を管理し、その指揮の下すべての工程が行われます。毎日7時から作業を開始し、休憩を含めて4時まできっちり働きます。昼の休憩にはビールが欠かせません。これには驚きました。ちなみに日本から招いた大工さん達は、もちろん仕事後のビールタイムを楽しみにしていました。



元々恵光寺をドイツに建てたいという構想は、精密計機器メーカーのミットヨの創業者の沼田恵範相談役が始めた事でした。柄戸氏はミットヨの現地法人の副社長の中島氏と、デュッセルドルフの建築規制部を訪問した時より常に一緒に相談しながら建築を進めていました。そしていよいよ最後の日本庭園の仕上げとなりましたら、中島氏の最初から日本庭園用に樹木を買い育て、庭園用の特殊な石も探してあるという用意周到さには驚かされたそうです。長い間探し求めたこの石はライン川上流よりの急流に磨かれたもので、日本庭園に正にふさわしい石でした。こうして山門を含め恵光寺は幼稚園を除き1995年に見事に完成しました。

私が1988年に2度目の駐在としてデュッセルドルフに参りましたら、完成した恵光寺の一部にお茶室があり、国際交流の一環として使わせて頂きました。正式なお茶室でのお茶会は、皆様にとっても喜んで頂きました。恵光寺の建築に関しましてのさらに詳しいことは、柄戸氏著書の「ドイツ恵光寺建築物語」をぜひお読み下さいませ。



Deutsche Schule Tokyo Yokohama 東京横浜独逸学園

OKTOBERFEST オクトーバーフェスト

10月7日(土) 12時~18時 入場無料

ドイツ及び各国の食べ物

手作りケーキとコーヒー・催し物

(詳しくは、ドイツ学園 HP をご覧ください。)



「暑気払い」と思いがけないご縁

～猛暑の横浜散策～



会員 川辺 祐香

猛暑続きと台風に見舞われ、まさに「暑気払い」をせずにはいられない今夏は新型コロナ感染症も第5類とみなされ行動制限が緩和され、ドイツ人でなくともビールを酌み交わしたくなる8月上旬に、成川会長を囲み親睦を深めるひと時をもちました。

この日は、わが横浜日独協会メンバーのみならず、思い掛けないご縁で千葉日独協会事務局長および香川日独協会理事でもいらっしゃる植松健さんと香川大学のドイツ人留学生、サラ・ファウストさんもご参加くださり、日独協会間の横のつながりと共に、日独交流の場にもなり、暑気を払うどころか熱気の溢れる楽しい「熱気盛り上がり会」であったとお店の方も思われたことでしょう。



香川大学の寮では昼と布団生活を経験し、美味しい香川のうどんを知り、お寿司と天ぷら以外にも知られていない日本食があること、また学生との交流が中心であったのでその他の年代の人々とは個人的にはあまり話すことはなかったこと、など気さくに親の年代である私たちに色々な高松での留学経験について語ってくださったサラさんは、この暑気払い会の一躍ヒロインとなられたことは言うまでもございません。

Wiesbaden にある Hochschule RheinMain で国際マネジメントを専攻しておられるサラさんは、5日後に留学期間を終え、母国ドイツに戻られ、しばらくするとポルトガルに研修に再び発せられるとのことでしたが、残る日本での数日間も精力的に首都圏を散策なされたいとのご希望で、翌日は南雲副会長と大治理事の3人で横浜ご案内を致しました。

朝の10時に桜木町駅集合で、私自身も乗ったことが無かった観光スポット周遊バス「あかいくつバス」に飛び乗り、歴史的建造物の街並みを冷房の効いたバスの窓から眺めながら、横浜案内のエキスパートの南雲さんと大治さんのご説明のもと元町入口で下車。そこからが本格的「猛暑の横浜散策」のスタートです。熱波の中、サングラスに帽子と日傘に飲み物を用意して暑さ対策を十分の上、外人墓地の木陰で涼みながら、港の見える丘公園まで午前のウォーキング。暑さのためか人影もまばらの中、関西からの観光客の方に記念写真を撮っていただき、一路山下公園方面へ。



途中で大きなポスターを発見し、「横浜人形の家」に立ち寄り、市松人形などをはじめとした日本人形や世界の人形、その歴史など興味深い展示物を見学して涼んだ後、観光客で溢れる中華街で関帝廟やお店を覗いてから、美味しい中華ランチに舌鼓を打ち、ホッと一息。

エネルギーチャージをしてから山下公園経由で大栈橋まで炎天下を歩き、なにやら黄色いピカチュウのサンバイザーを被った人々が沢山集う横浜赤レンガ倉庫を通りすぎり、サラさんも配っていたピカチュウサンバイザーをかぶり、みなとみらいに向かうとそちらからもピカチュウを被った人々の行列。クイーンズスクエア横浜に行くと東急線の駅のホームまでピカチュウやらポケモンだらけで、



その日は「ポケモンバトルの世界大会」なるものが横浜で開催される前日にあたり、世界中からポケモンファンが横浜に集結する時期であったことを知りました。今や世界的に知られる日本文化の一端を担うとも言えるピカチュウイベントは、サラさんには印象に残ったことでしょう。



海が近くには無いフランクフルト近郊ご出身のサラさんは、ショッピングモールや公園に隣接した広い海も日本滞在の最後に見納め、万歩計が16,000歩超を示す夕方には「今まで日本で食べた中で一番おいしかったかき氷！」と喜んでいただけた宇治抹茶白玉かき氷でクールダウンして猛暑の横浜散策は解散となりました。

思い掛けないご縁で急に決まった合同暑気払いと横浜散策は、「今度また絶対に日本に戻ってきます。その時にディズニーランドやジブリはとっておきます！」と元気はつつつに言っていたサラさん、そして、お声がけくださった植松さんとの今夏の素敵な思い出となりました。

サラさんからは、ご無事に母国へ戻られ、高松では手に入らず恋しかったドイツパン“Brötchen”を朝食で手に取ることが楽しみだというLINEのメッセージと共に、ご帰国のご連絡が入りました。またのご来日を楽しみにしております！

文化委員会企画

秋の永青文庫美術館・細川庭園散策

【日時】2023年(令和5年)11月1日(水)

【場所】永青文庫美術館・肥後細川庭園

参考：湘南新宿ライン 横浜 9:37→
山手線に乗り換え 渋谷 10:09→目白 10:22

10:30 JR 目白駅改札口前集合

(改札口は、池袋駅方向の1か所です)
バス5番乗り場(白61系、新宿駅西口行)
目白駅前→目白台三丁目 乗車時間約10分

11:00~11:40 永青文庫美術館見学

入館料1,000円(シニア料金70歳以上800円)

企画展「秘蔵!重要文化財「長谷雄草紙」
全巻公開ー永青文庫の絵巻コレクションー」

12:00~ランチ「キャトルフォンテーヌ」(フランス料理)

新宿区早稲田鶴巻町519 Tel. 03-3232-8555
2,500円(コース料理・税込)

14:00~15:00 肥後細川庭園散策(無料)

15:00~15:30 肥後細川庭園内「松聲閣」にて抹茶
(菓子付600円)をいただき、現地解散

(参考)肥後細川庭園より

地下鉄有楽町線「江戸川橋」まで徒歩約10分
地下鉄東西線「早稲田」駅まで徒歩約10分

参加ご希望の方は、10月21日(土)までに
中尾文化副委員長までお申込み下さい。

E-mail: naomint2013@gmail.com

館野ゆかり会員 ソプラノ演奏会 魅惑のドイツ歌曲

5/14 原宿アコスタディオ JDGY 後援



演奏の皆様とJDGY会員

編集後記: 記録的な酷暑もこの会報が出るころには
終わっているかと期待していますが、終わったと思っ
たコロナは勢力を持ち直したのか、知人友人たちがば
たばたと感染してしまっていて、しまいかけていたマスク
が再登場しています。皆様もお気をつけて秋をお楽し
みください。(山口)

イベント予定

■ 10月 イベント:

- ・日時: 10月21日(土) 15:00~16:30 非会員も参加可
- ・会場: 戸塚区民文化センター
さくらプラザ4階 リハーサル室
- ・講演者: 清田とき子氏
(元ケルン日本文化会館館長、
前ベルリン日独センター副事務総長)
- ・演題: 「ケルン日本文化会館・ベルリン日独センタ
ーの活動と近年のベルリン文化事情」
- ・参加費: 1,000円

■ 11月 イベント:

- ・日時: 11月18日(土) 15:00~16:30 非会員も参加可
- ・会場: 川崎市総合自治会館 4階大会議室2
(東横線武蔵小杉駅より徒歩2分)
- ・講演者: 今泉 瞬氏(ブツデリカテッセン ドイツ国家
資格ゲゼレ(メツゲライ) 取得者)
- ・演題: 「ドイツのお肉屋さん、パン屋さんで修業した
職人のお話(仮)」
- ・参加費: 1,000円

■ 12月 休会

クリスマス会のお知らせ

副会長 南雲 淑子

今年も楽しいクリスマス会が「霧笛楼」にて開催され
ます♪ 恒例のクイズ大会の他に、東京アルテリーベ
に出演なさっている歌手の栗田真帆さんをお迎えし
てのクライネムジークショーを特別企画しています。

日時: 12月9日(土) 11:30 受付

場所: 霧笛楼(横浜元町)

会費: 7000円(飲み物代別)

申込先: 南雲

メールアドレス: toshiko-n.721@ksj.biglobe.ne.jp

携帯番号: 080-5034-9372

会場の都合により、先着順35名様までとさせていただきます。



*WEB 会員様(メールアドレスを登録されている会員様)
には、イベントの参加・不参加を問う葉書は差し上げません
ので、メール又はホームページからお申し込み下さい。

認定NPO法人横浜日独協会会報 発行 2023.10.1(第68号)

所在地: 〒247-0007

横浜市栄区小菅ケ谷1-2-1 地球市民かながわプラザ

NPOなどのための事務室内 事務局: 齊藤 津澤

Tel: 080-7807-7236

E-Mail: jdg-yokohama2010@outlook.jp

会報編集責任者: 山口 利由子

E-Mail: riyuko.yamaguchi@gmail.com

横浜日独協会ホームページ <https://jdg.sub.jp>



法人会員

株式会社文芸社	ウインクレル株式会社	ボッシュ株式会社	トルンプ株式会社	公益財団法人登戸学寮
ワインブティック伏見	モトスミ・プレーメン通り商店街振興組合			横浜国立大学ー成長戦略研究センター
株式会社コトブキ	神奈川大学	ケルヒヤージャパン株式会社	一般社団法人如水会	横浜支部 日独産業協会(DJW)
キャリア・デベロプメント・アソシエイツ(株)		富士・フォイトハイドロ株式会社		日本パウシュ株式会社